



東京経済大学ニュース

Vol.23

東京経済大学 公式サイト: <https://www.tku.ac.jp/>

Contents

特集

いま、ここ。国分寺から。SDGs シンポジウムを開催します。
いま、国分寺から。「国分寺学派」を目指します。

東経大インフォメーション

- Information 1** 大学構内で傘のシェアリングサービスを導入
「アイカサ」を学内 2 カ所に設置
- Information 2** 「食の貧困」と「生理の貧困」の解消に向けた学生支援
10 月 11 日(月)から 3 日間、フードバンク事業と生理用品の配付事業を実施
- Information 3** 交流機会が減っている学生へ「秋のつながるプロジェクト」を実施
1、2 年生を対象に、対面とオンラインで複数回実施
- Information 4** 『新・多摩学のすすめ <郊外>の再興』を刊行
創立 120 周年事業の共同研究の集大成
- Information 5** 11 月 13 日(土)～14 日(日)、国際シンポジウムをオンライン開催
都市の持続可能な発展と公共財:東京・上海の都市比較研究
- Information 6** 『東京経済大学百二十年史 資料編第一巻』刊行記念講演会
11 月 20 日(土)、本学進一層館にて開催
- Information 7** 市民大学講座(2021 年度第 39 回)をオンライン配信
「現代社会を考える 2021～文化・教育・生活～」

特集

いま、ここ。国分寺から。SDGs シンポジウムを開催します。

いま、国分寺から。「国分寺学派」を目指します。

東京経済大学は、今年4月に発表した「東京経済大学 SDGs 宣言」に基づき、新しい時代の地域主義のあり方を考え抜く「国分寺学派」を目指し、SDGs シンポジウムをシリーズで開催します。持続可能な社会の実現のために、同じ地域に住む人々とのつながりの中から生まれる柔軟な発想で、国分寺から世界に向けて情報発信したいと考えています。

第1回目の配信開始は10月30日(土)から、岡本英男学長のほか、国分寺市の井澤邦夫市長と、建築家・東京大学名誉教授の藤森照信氏をお迎えしオンライン(動画配信)方式にてお届けします。『「国分寺から世界へ」～地域を掘り下げ世界へ。国分寺学派はじまる～』をテーマとして、SDGsの11番目の目標である「住み続けられる街づくり」と関連した「豊かな市民社会とは何か」を切り口に、歴史と緑豊かな国分寺の今までと未来を考える講演内容です。

シンポジウムシリーズの開催にあたり、岡本学長から「国分寺学派」構想に込めた思いをご紹介します。

国分寺学派宣言 —国分寺から世界へ—

私は本学に着任した1997年の秋に、本学の学問の活性化のためには専門と学派を超えた研究会が必要と考え、同僚数人と「世界システム研究会」を立ち上げました。研究会を開催するなかで、本学の研究者がさまざまな学問分野で活躍し、それが広く世間に知られる「国分寺学派」を作りたいという思いが強くなっていきました。また、2020年5月13日掲載の『日本経済新聞』の「交遊抄」において、本学を拠点とした現実に根差した経済学の新潮流を生み出す「国分寺学派」の想いについて寄稿しました。



東京経済大学 学長 岡本英男

私が長年このような構想を抱いてきたのは、社会に広く影響を及ぼす学問や文化は、一つの大学あるいは一つの地域で、さまざまな分野の研究者や市民が相互に深く交流する中で生まれると固く信じてきたからです。

本学は、「誰一人置き去りにすることなく、すべての人間が尊厳と平等の下に、そして健康な環境の下に、その持てる潜在能力を発揮することのできる社会を目指す」というSDGsの理念に深く共鳴し、2021年4月1日に「東京経済大学 SDGs 宣言」を発表しました。

SDGsの目標とターゲットが列挙しているように、私たちの眼前には全地球倫理に基づいて解決し、次世代に継承しなくてはならない課題が山積しています。しかしそれらは同時に、私たちの足もとにある日常の具体的な諸問題と分かち難く結びついています。このような観点に立ち、本学は、これからの時代の「新しい地域主義」のあり方を市民と一体となって考え抜く「国分寺学派」の拠点となりたいと考えています。

このような私たちの思いは、2021年9月に逝去された色川大吉名誉教授の「地域の一角を系統的に深く掘り下げる研究は、日本の学界が行き詰まっている理論的隘路を打ち破るための不可欠の作業である」という主張と重なるものであり、本学は故色川名誉教授の精神を引き継ぎ、この国分寺の地からSDGsの精神を世界に発信する「国分寺学派」の拠点となることを宣言します。

東経大インフォメーション

Information 1

大学構内で傘のシェアリングサービスを導入

「アイカサ」を学内2カ所に設置

2021年9月21日（火）、東京経済大学では傘のシェアリングサービス「アイカサ」を本学1号館1階と葵陵会館1階の入り口に設置しました。「アイカサ」は、使い捨て傘の削減を目的とした傘のシェアリングサービスで、駅や商業施設などに設置されたアイカサスポットから傘をレンタルし、利用後は最寄りのスポットに返却できるというものです。

アイカサスポットは本学周辺の国分寺駅や国分寺マルイの入り口にも設置され、急な雨のときも、ビニール傘を購入する半額以下の料金でレンタルができ、かつ資源を守ることもつながります。



本学の設置にあたり、国分寺の地域連携やSDGs活動を推進する経済学部の尾崎寛直教授と周牧之教授が関わり、設置当日は周牧之ゼミ生も立ち合いました。

(参考: アイカサ Web サイト <https://www.i-kasa.com/>)

Information 2

「食の貧困」と「生理の貧困」の解消に向けた学生支援

10月11日（月）から3日間、フードバンク事業と生理用品の配付事業を実施

本年10月11日（月）から3日間、一人暮らしや生活が困窮している本学学生へ校舎で食料品を配付するフードバンク事業を行いました。

本事業は東京経済大学と東京経済大学生協同組合が協力し、希望した学生に引換券を発行する方式で実施。来場者は1、2年生が多く、「生活費の節約になり助かる」「自炊するきっかけとなる」と話してくれました。密を避けたスムーズな受け渡しを意識し、会場で引換券とあらかじめ食品を詰めた紙袋を交換するだけの方式を採用しました。

また上記期間中に、東京経済大学教職員の有志団体「女子学生支援プロジェクト」は、生活に困窮する女子学生を対象に生理用品を配付。コロナ禍の「生理の貧困」により支援を必要とする女子学生がいるのではないかと、2021年6月に女性教職員の有志でプロジェクトを立上げ学内に呼びかけを行い、専任教職員だけでなく、理事や非専任の教職員、派遣スタッフ、教職員のご家族、近隣の方からのカンパによって実施に至りました。生理用品を受け取った女子学生は「コロナ禍での1人暮らしで、アルバイトを思うようにできず大変困っている。毎月の出費になるため今回の生理用品の配付はととてもありがたい」と話してくれました。今後、第2回目の配付を予定しています。



(フードバンク事業の様子)



(「女子学生支援プロジェクトの様子」)

Information 3

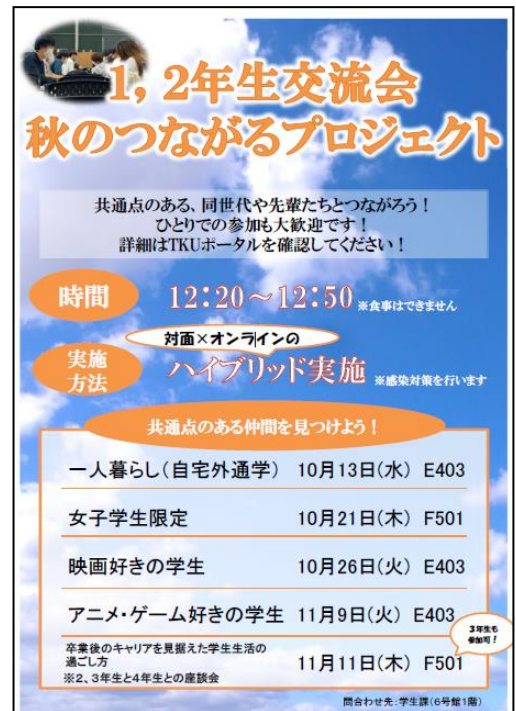
交流機会が減っている学生へ 「秋のつながるプロジェクト」を実施

1、2年生を対象に、対面とオンラインで複数回実施

東京経済大学では、コロナ禍で交流機会が減っている学生支援のひとつとして「1、2年生交流会 秋のつながるプロジェクト」を、2021年10月13日(水)、10月21日(木)、10月26日(火)、11月9日(火)、11月11日(木)の5日間に渡り開催します。

3年生以上の上級生が司会役を務め、「一人暮らしの学生」や「映画好きの学生」、「アニメ・ゲーム好きの学生」、「女子学生限定」などのテーマを各回で設け、1、2年生が自身の関心に合わせて参加しやすいように実施しています。

参加者からは、「対面授業が始まったばかりで、学生同士の交流の機会が少なかったが、イベントに参加したことで人と話すことの楽しさを改めて実感した」といった感想が寄せられています。



共通点のある、同世代や先輩たちとつながろう！
ひとりでの参加も大歓迎です！
詳細はTKUポータルを確認してください！

時間 12:20～12:50 ※食事はできません

実施方法 対面×オンラインのハイブリッド実施 ※感染対策を行います

共通点のある仲間を見つけよう！

一人暮らし(自宅外通学)	10月13日(水)	E403
女子学生限定	10月21日(木)	F501
映画好きの学生	10月26日(火)	E403
アニメ・ゲーム好きの学生	11月9日(火)	E403
卒業後のキャリアを見据えた学生生活の過ごし方 ※2、3年生と4年生との座談会	11月11日(木)	F501

問い合わせ先: 学生課(6号館1階)

Information 4

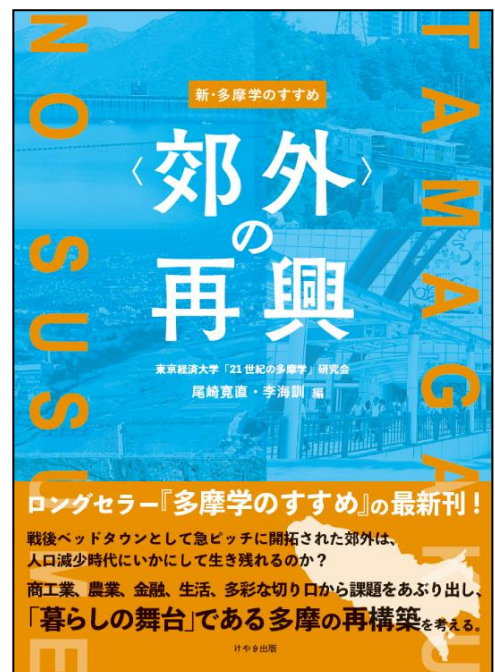
『新・多摩学のすすめ <郊外>の再興』を刊行 創立120周年事業の共同研究の集大成

東京経済大学創立120周年記念事業の一つ「環境と地域にかかわる産官学民連携による共同研究」は、2018年より市民参加型の研究会やシンポジウムの形で展開されてきました。

今回、それまでの研究成果をふまえ、記念事業のまとめとして『新・多摩学のすすめ <郊外>の再興』(けやき出版)が2021年11月4日(木)に発刊されました。

多摩地域は、高度経済成長期の都市拡大の波により、「多摩ニュータウン」に象徴されるような、急激な開拓と発展を遂げてきました。本学ではかつて、このような発展を遂げた多摩地域を初めて「多摩学」という観点から学術的に探究し、1990年代初めに『多摩学のすすめⅠ～Ⅲ』(3冊本)を出版してきた経緯があります(東京経済大学多摩学研究会編『多摩学のすすめⅠ』けやき出版、1991年、ほか)。

今回の出版は、「バブル崩壊」「都心回帰」「人口減少」という大きな時代の変化を受けた現在の視角から切開し、多摩地域の商業、工業、農業、福祉、金融などさまざまな分野の課題や展望をあきらかにしています。多摩地域という<郊外>を人口減少時代にどのように再興していけるのかを考える道標となる本と言えるでしょう。



新・多摩学のすすめ

<郊外>の再興

東京経済大学「21世紀の多摩学」研究会
尾崎寛直・李海剛 編

ロングセラー『多摩学のすすめ』の最新刊！

戦後ベッドタウンとして急ピッチに開拓された郊外は、人口減少時代にいかんして生き残れるのか？

商工業、農業、金融、生活、多彩な切り口から課題をあぶり出し、「暮らしの舞台」である多摩の再構築を考える。

けやき出版

Information 5

11月13日(土)～14日(日)

国際シンポジウムをオンライン開催

都市の持続可能な発展と公共財 東京・上海の都市比較研究

東京経済大学と海外協定校である華東理工大学(中国)は、都市の持続可能な発展について2017年度から共同研究を行い、スマートシティや都市インフラ、公共サービス、産業集積、都市環境など都市の持続可能性を追求してきました。コロナ禍により都市機能にほころびが生じているなか、都市の持つ多面的機能について公共財をテーマとして、巨大人口を擁する東京と上海を事例に都市発展の諸課題を議論します。

The poster features the title in Japanese and English, the dates (November 13-14, 2021), and the names of the speakers: 福士正博 (Masahiro Fukushi) and 吳柏鈞 (Po-ko Ng). It also includes a QR code for registration and a note that the event is online.

オンライン国際シンポジウム「都市の持続可能な発展と公共財：東京・上海の都市比較研究」			
	配信日時	講演者	講演内容
第1セッション 環境・社会 11月13日(土)	14:20～	吳 柏鈞 華東理工大学高等研究院院長	都市の環境ガバナンスと持続可能な発展
	15:00～	福士 正博 本学経済学部教授	東京都の温暖化への取組み—排出量取引制度の事例から
	15:50～	中村 彰宏 中央大学経済学部教授	急速なオンラインコミュニケーションの進展による社会変容
	16:30～	殷 広衛 華東理工大学副教授	上海市における産業の位置づけと持続可能な発展
第2セッション 産業・交通 11月14日(日)	9:30～	吳 玉鳴 華東理工大学商学院副院长	中核都市上海のエネルギー需要と持続可能な発展
	10:10～	門脇 諒 京都大学専任講師 長岡 貞夫 本学経済学部教授	東京への産業集積のメカニズム
	11:00～	青木 亮 本学経営学部教授	都市鉄道の持続可能性
	11:40～	潘 春陽 華東理工大学副教授	高速鉄道と揚子江デルタ市場一体化
第3セッション 健康・廃棄物処理 11月14日(日)	14:00～	李 蓮花 本学経済学部准教授	メガシティ東京の高齢化と介護保障
	14:40～	楊 上広 華東理工大学教授	上海健康都市建設構想とその実現
	15:30～	楊 継波 華東理工大学副教授	環境ガバナンスに向けた社会参加および対策:上海の事例
	16:10～	羅 歆鎮 本学経済学部教授	持続可能なごみ処理システムの構築と諸課題:プラスチックごみを事例に
申込方法	事前申込制(以下申込サイトよりお申込みください) https://www.tku.ac.jp/event/2021/1026-2540.html		



Information 6

『東京経済大学百二十年史 資料編第一巻』 刊行記念講演会

11月20日（土）、本学進一層館にて開催

1900年創立の大倉商業学校を前身とする東京経済大学は、2020年に創立120周年を迎えました。これを記念して大学史の編纂に取り組み、2020年11月に『東京経済大学百二十年史 資料編第一巻』を刊行いたしました。同書は東京経済大学百二十年史編纂委員会編、(株)日本経済評論社発行、定価8,500円(税別)で全国の書店にて販売しています。

『資料編第一巻』は、総史料数352点を収録し、大倉商業学校設立前後から戦後の国分寺移転、大学昇格にいたるまでの史料のほか、学校だけでなく学生にも焦点を当て、学生の部活動や日常生活、学内における抗議運動などの様子も収録している点が特色です。

刊行を記念して講演会を開催いたします。参加希望の方は本学ホームページからお申込みください。

『東京経済大学百二十年史 資料編第一巻』
刊行記念講演会

1900年創立の大倉商業学校を前身とする東京経済大学は、2020年に創立120周年を迎えました。これを記念して大学史の編纂に取り組み、2020年11月に『東京経済大学百二十年史 資料編第一巻』を刊行いたしました。同書は東京経済大学百二十年史編纂委員会編、(株)日本経済評論社発行、定価8,500円(税別)で全国の書店にて販売中です。『資料編第一巻』は大倉商業学校設立前後から戦後の国分寺移転、大学昇格にいたるまでの史料を収録しています。編纂、学校は商業大東京と東京大空襲という2度の災禍に襲われ、内部史料の大半が失われたため、本資料編では東京部公文書館や国立公文書館が所蔵する公文書や『大倉高商新聞』などの学生新聞に多くをよるざるを得ませんでした。結果として総史料点数352、総ページ数1962という大部なものとなりました。とりわけ、学生の部活動や日常生活、学内における抗議運動など、学校だけでなく学生にも焦点を当てるとともに、学内の資料集の特色といえます。刊行を記念して講演会を開催いたします。参加希望の方は本学ホームページまたは電話 FAX 用紙をご利用いただき申し込み下さい。皆様のご来場をお待ちしております。

日時 2021年11月20日(土)
13時～16時(終了時刻予定)

場所 東京経済大学 国分寺キャンパス 進一層館フォワードホール

参加費 無料(事前申込制) 定員160名

講演 「商業教育史における大倉喜八郎」
石井寛治 東京大学名誉教授

「学校創立の3人の発起人—石黒忠憲、渋沢栄一、渡辺洪基—」
村上勝彦 東京経済大学名誉教授・大倉文化財団理事長

問合せ先 〒185-8502 東京都国分寺市南町1-7-34
東京経済大学 史料室 電話 042-328-7955 FAX 042-328-5900

『東京経済大学百二十年史 資料編第一巻』刊行記念講演会	
日時	2021年11月20日(土) 13:00～16:00
場所	東京経済大学 進一層館フォワードホール
講演	●「商業教育史における大倉喜八郎」 石井寛治 東京大学名誉教授 ●「学校創立の3人の発起人—石黒忠憲、渋沢栄一、渡辺洪基—」 村上勝彦 東京経済大学名誉教授・大倉文化財団理事長
参加費	無料
申込方法	事前申込制(以下申込サイトよりお申込みください) https://www.tku.ac.jp/contact/120nenshikouen/



Information 7

市民大学講座(2021年度第39回)をオンライン配信

「現代社会を考える 2021～文化・教育・生活～」

東京経済大学では、40年近く市民に親しまれてきた「市民大学講座」を、今年度はオンライン(動画配信)方式で開催します。

現在、世界各国が感染症対策に取り組んでいるなか、政治、経済、文化の面では絶えず変化が生まれています。このような時代において、現代社会を客観的に理解し、地域社会が安全で思いやりにあふれる生活の場になるためには、多元的な文化の理解に基づいた寛容な社会の実現が必要であると考えています。国分寺市と東京経済大学が共催する「市民大学講座」は、身近な場所から日本全体、そして世界全体までも視野に入れ、現在、過去、未来を市民の皆様と一緒に考える場として機能してきました。

今年度の「市民大学講座」においても、激動の時代を柔軟に乗り越え、多様性を認め合う寛容に満ちた未来の社会を目指すための「知恵」を皆様とともに考え、地域の豊かな発展のために貢献できる講座にしたいと考えています。参加希望の方は本学ホームページからお申込みください。

国分寺市教育委員会・東京経済大学 共催

2021年度 第39回 市民大学講座

「現代社会を考える2021～文化・教育・生活」

40年近く市民の皆様が親しまれてきた「市民大学講座」も、昨年度は新型コロナウイルス感染症対策のため開催中止となりました。今年度は対面方式による開催を目指して、開校40周年の記念行事の一環として今年度より、8月に入っても感染症の流行による感染状況の拡大が見えないことから、オンライン(動画配信)方式による開催に変更することになりました。このような事情により、例年より「縮小開催」となりますが、お申し込みください。また、対面開催を楽しみにされていた皆様には、大変申し訳ないと思っておりますが、よろしくご理解をお願い申し上げます。

ところで、私たちが新型コロナウイルスへの対応に懸命になっている中、ハイデン政権の誕生、香港での言論弾圧、ミャンマーのクーデター、そして無差別客のオリンピック会場など、政治、経済、文化のあらゆる面で絶えず変化が生まれています。国際政治では米中の対立が顕著な局面となり、国内政治では分断に悩む国が多くなって権威主義的政府が世界各地に誕生しています。このような時代にあっても、わたしたちは、現代社会を客観的に理解し、地域社会が安全で思いやりにあふれる生活の場としていかなければなりません。そのために必要なのは、多元的な文化の理解にもとづき、マイリシティや異文化を併存するよう努力すること、多様な文化の共存による社会の実現ではないでしょうか。

国分寺市と東京経済大学が共催する「市民大学講座」は、40年近く、一貫して私たちの身近な場所から、日本全体、そして世界全体までも視野に入れ、現在、過去、未来を市民の皆様と一緒に考える場を提供してまいりました。今年度の「市民大学講座」においても、激動の時代を柔軟に乗り越え、多様性を認め合う寛容に満ちた未来の社会を目指すための「知恵」を皆様とともに考え、地域の豊かな発展のために貢献できる講座にしたいと思っております。あらためて皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

第1回	10月23日(土)	午後1時30分～	※配信期間：～11/5(金)午後3時
講師	田島博和 (東京経済大学経営学部教授)	東南アジアに見る多文化共生～違いの向こうにある「何か」～	
第2回	11月6日(土)	午後1時30分～	※配信期間：～11/19(金)午後3時
講師	久川伸子 (東京経済大学全学共通教育センター准教授)	日本語教育から見た日本語の諸相	
第3回	11月27日(土)	午後1時30分～	※配信期間：～12/10(金)午後3時
講師	松永智子 (東京経済大学コミュニケーション学部准教授)	昭和50年代論_メディア文化にみる「終わらない戦後」の始まり	
第4回	12月4日(土)	午後1時30分～	※配信期間：～12/17(金)午後3時
講師	李蓮花 (東京経済大学経済学部准教授)	東アジア少子化高齢化と人口減少	

※配信視聴後の質問等は対応できかねますので予めご了承ください。各講座は2時間を予定しています。

市民大学講座「現代社会を考える 2021～文化・教育・生活～」

配信期間	講師	講義内容
第1回 10月23日(土) ～11月5日(金)	田島 博和 本学経営学部教授	東南アジアに見る多文化共生 ～違いの向こうにある「何か」～
第2回 11月6日(土) ～11月19日(金)	久川 伸子 本学全学共通教育センター准教授	日本語教育から見た日本語の諸相
第3回 11月27日(土) ～12月10日(金)	松永智子 本学コミュニケーション学部准教授	昭和50年代論 メディア文化にみる「終わらない戦後」の始まり
第4回 12月4日(土) ～12月17日(金)	李 蓮花 本学経済学部教授	東アジア少子化高齢化と人口減少
申込方法	事前申込制(以下申込サイトよりお申込みください) https://www.tku.ac.jp/contact/ext_kokubunji/index.html	

東京経済大学 総合企画部 広報課

〒185-8502 東京都国分寺市南町 1-7-34

TEL:042-328-7724 FAX:042-328-7768 Email:pr@s.tku.ac.jp